2013年度 私立大学図書館協会東地区研究部第５期分科会
第６回　大学教育と大学図書館（2013.12.5, 明治学院大学）

ＦＤ活動と協働できる情報リテラシー教育を考える

－ラーニング・コモンズの事例を含め－

同志社大学 学習支援・教育開発センター
社会学部嘱託講師「学術情報利用教育論」
井　上　真　琴
minoue@mail.doshisha.ac.jp

まとめ

図書館が実施する情報リテラシー教育は高等教育の「質の向上」に寄与できる。そのためには、

1. FD活動と高等教育改革の文脈のなかで情報リテラシー教育を捉えることを意識する。
2. 「人はどう学ぶのか」＝学習理論に立脚しながら、プログラムの企画・運営を行う。
3. 情報源サービスから「学び方修得」支援サービスへの転換を理解する。

本日の内容

Ⅰ．大学教育への貢献が問われる理由

≪中休み：ラーニング・コモンズ≫

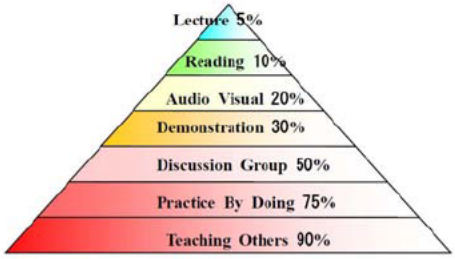
Ⅱ．情報リテラシー教育をどう改善するか

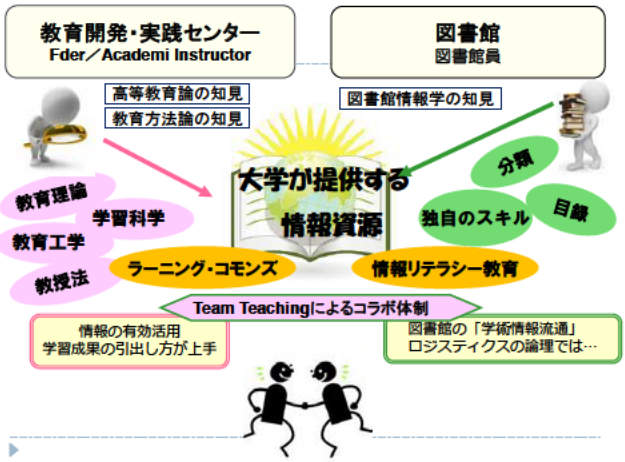
Ⅰ．大学教育への貢献が問われる理由

ラーニングピラミッド、知っている？

学習定着率「Learning Pyramid」

（出典：National Training Laboratories）





Ⅰ．大学教育への貢献が問われる理由

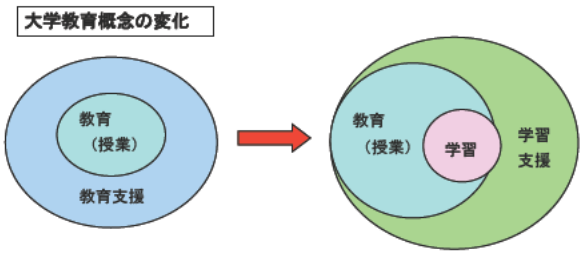
ＦＤ活動の活発化と研修内容

ＦＤ(ファカルティ・ディベロプメント) ＝
教員の組織的な教育力向上に向けた持続的な活動

- わかりやすいシラバスの書き方
- 授業デザインを学ぶ
- 授業アンケートのフィードバック方法
- クリッカーを利用した効果的な授業実践
- PBL,TBLの授業方法
- 学生のやる気をださせる話し方講座
- よい学習行動を導く「課題の与え方」

Ⅰ．大学教育への貢献が問われる理由

学習中心の教育コンセプト



孫福弘「大学運営のリエンジニアリング」から転載
（『大学改革2010年への戦略』、PHP研究所、1996）

Ⅰ．大学教育への貢献が問われる理由

例えば,単位の実質化

単位：Credit（信用！）

1単位の授業科目は,標準的に15時間の授業と30時間の準備学習や復習の時間を合わせて45時間の学修を要する教育内容をもって構成されている。

大学評価・学位授与機構
『高等教育に関する質保証関係用語集』
http://www.niad.ac.jp/n_shuppan/package/no9_21_niadue_glossary_2009.pdf

※文部科学省の「大学証明」での不安（詐欺の片棒を担ぐ？）

Ⅰ．大学教育への貢献が問われる理由

目標は、学生の「学びの質向上」

もしも・・・
大学の最終的な目的=学生の「学びの質向上」

FDの目的＝教員が変わる⇒ 学生の学びの質向上

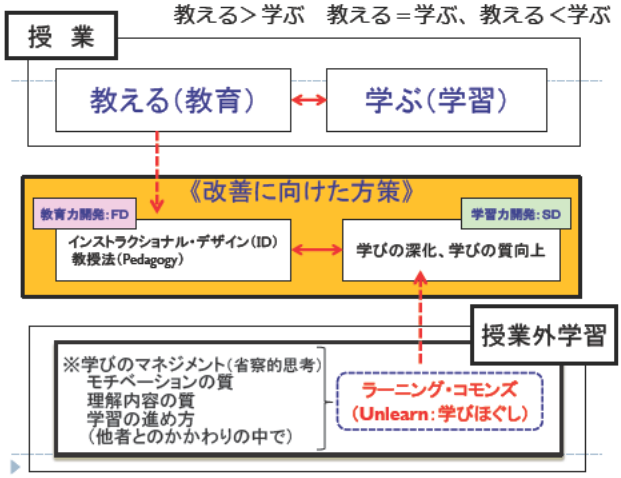
間接的関与

FDの目的＝学生の学びの質向上⇒ 教員が変わる

直接的関与

島根大学・森朋子氏作成スライド「 学習研究を基盤とした協働型FD」
（名古屋大学招聘セミナー、2012.10.17 ）を参照

教える＞学ぶ　教える＝学ぶ、教える＜学ぶ

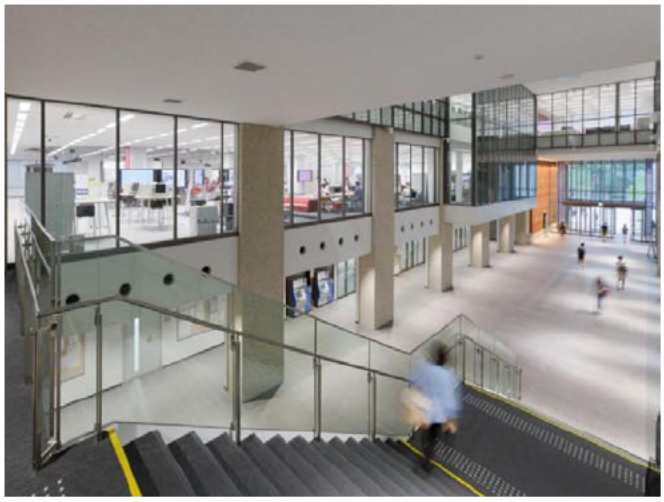


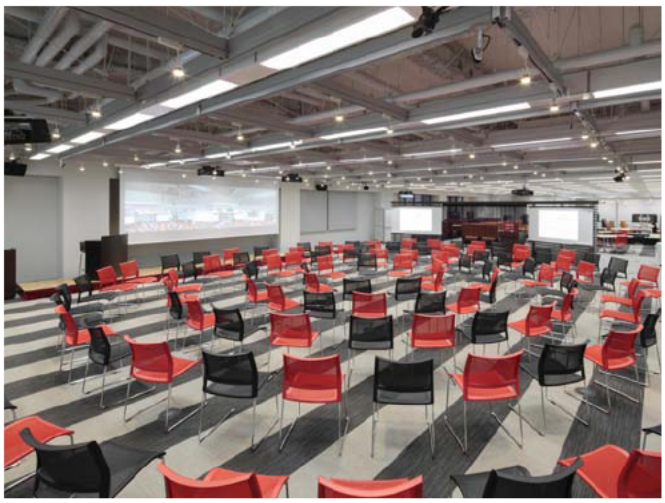
図表　ラーニング・コモンズ設置の説明スキーム

1	高等教育は、学習成果（アウトカムズ）重視に移行している。シラバスに「○○ができるようになる」と記述する根拠になっている。
2	学習成果の向上には、アクティブ・ラーニング（グループでの議論や体験の重視、ピア・サポート）が有効だと審議会答申等で言及されている。
3	アクティブ・ラーニングは、複数人数で協同して行うと効果的である。主体的な学習者は、他者との相互作用を通じて学ぶ必要があるからだ。
4	協同学習に適した学習環境は、教室でいえばラーニング・スタジオ、教室外ではラーニング・コモンズになる。
5	ラーニング・コモンズの学習空間を活用すれば、授業外学習時間の増加チュータリングによる学習の質向上、単位制度の実質化につながる。
6	正課の授業外学習支援に焦点をあてるならば、その理由から運営組織は図書館ではなく、教学部門の組織が適切である。

≪中休み：ラーニング・コモンズ≫

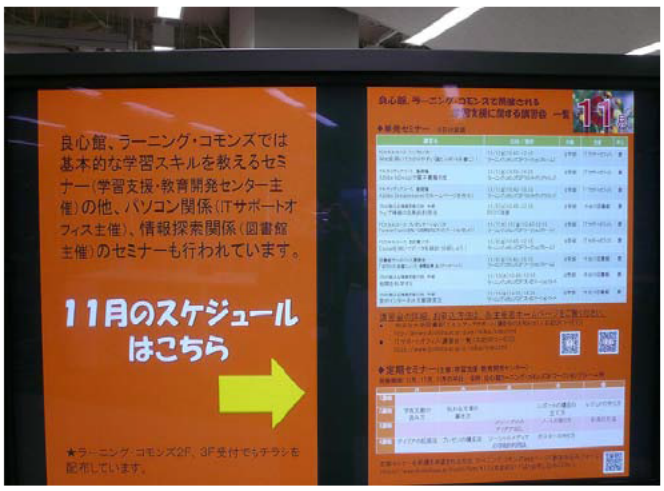
教室、研究室、学生の自習室や福利厚生施設、人文・社会系学生を対象にしたラーニング・コモンズ等を備えた新校舎「良心館」（地下2階、地上5階、建築面積約8,000㎡、延床面積約40,000㎡）を建設した。





9大学共同ワークショップ
「グローバル」の
普遍性について
【Global Competence in a Global Society with Special Reference to its Universality】
2013年11月23日(土・祝)
12:30～18:00
同志社大学 今出川キャンパス
TEL:075-251-3300

こんな質問受けたよ！
ラーニング・コモンズ アカデミック スキルセミナー


良心館、ラーニング・コモンズでは
基本的な学習スキルを教えるセミナー（学習支援・教育開発センター主催）の他、パソコン関係（ITサポートオフィス主催）、情報探索関係（図書館主催）のセミナーも行われています。
11月のスケジュール
はこちら
★ラーニング・コモンズ2F、3F受付でもチラシを配布しています。

国際センター"Go Global" Desk 毎週金曜日 13:00～18:00
留学経験者が
皆さんの質問にお答えします。
海外で学ぶこと
海外で生活すること
準備の仕方や
注意すること
など、
イギリスとアメリカから派遣留学帰国したばかりの経験者が皆さんをお待ちしています。
Please come to see us!
Go! Global

国際センター"Go Global" Desk 毎週火曜日 11:00~13:00
Think in English, Discuss in English !
11月12日のテーマは、"英語力はどうしたら向上するの？"
Global Villageで、
毎週火曜日に
"Go Global"Assistantを進行役として海外からの留学生も
参加し、英語でディスカッションを行って海外で過ごす
空間づくりを試みています。
どなたでも自由参加ですので、
現在の語学力などは気にしないで、グローバル感覚を味わって自分らしい実践力を
養う場として活用ください。
Please come to join us!

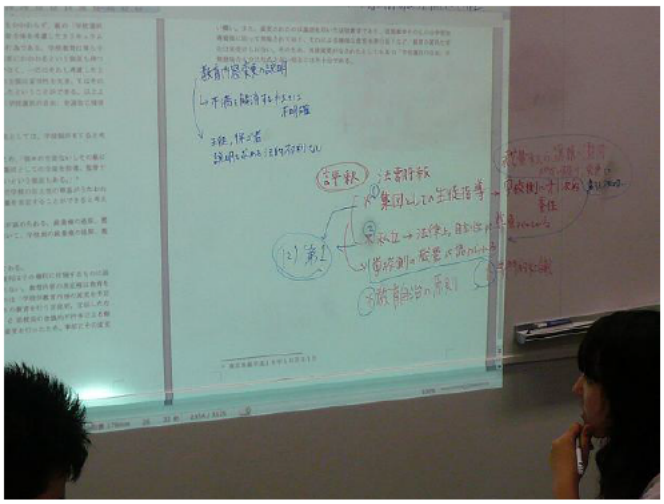
今出川図書館講習会
プロが教える
情報検索の技
使利なデータベースを使いこなそう!
10/28
キーワード検索がわかる
10/30
統計・企業情報の集め方/考え方
11/5
ウェブ情報の効果的利用法
11/13
相関を科学する
11/15
自分インターネットを使った文献探索・収集法
東洋経済
デジタルコンテンツ・ライブラリー
FACTIVA
The Intelligence Engine

禅の教え(ぜんのおしえ)
不立文字 (ふりゅうもんじ)
文字に書いても伝えることができない
教外別伝 (きょうげべつでん)
言葉では伝えられない教え
直指人心 (じきしにんしん)
自分の心をじかに見る
見性成仏 (けんしょうじょうぶつ)

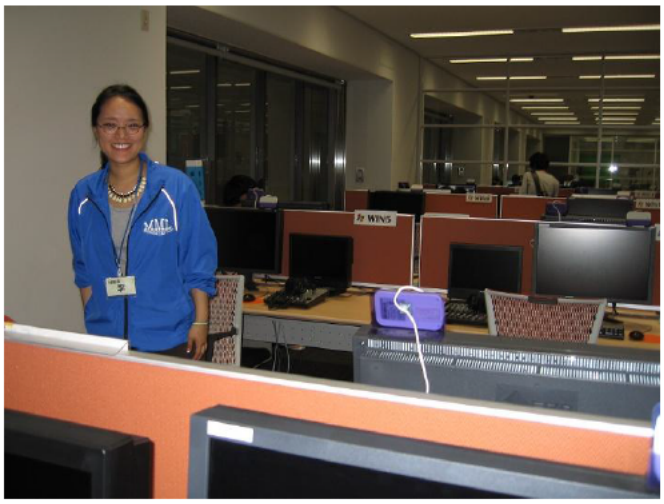
目的
今後の予定

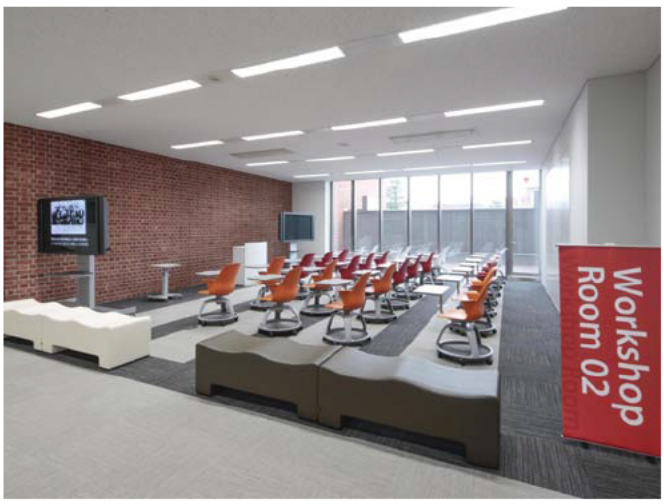
Go!
Global
留学相談

Desportos



Support Area




Workshop
Room 02

中休み：ラーニング・コモンズ

学習支援のための人的支援の配置

- アカデミック・インストラクター（専属教員2名）
- アカデミック・インストラクター（専属職員1名）
- 学習支援コーディネーター（職員1名）
- ラーニング・アシスタント（大学院生14名） 2013.10～
- 情報探索アシスタント（図書館からレファレンス担当1名）
- 留学コーディネーター（国際センターから1名）
- 留学アシスタント（国際センターから数名）
- ICTサポートスタッフ（ITサポートオフィスから数名）
- 学生スタッフ（学生支援センターから：ピアサポート講座受講生）
- プリントステーション・スタッフ（外部委託）

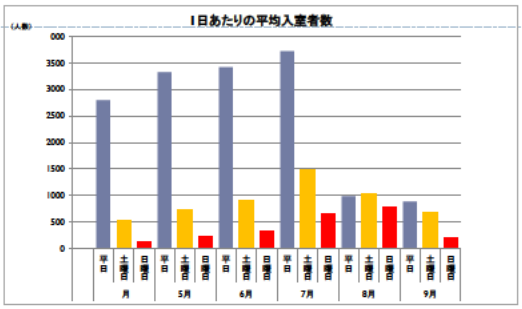
ラーニング・アシスタント（大学院生対象） ワークショップ

【到達目標】
- 初対面の人でも，なごやかに話ができ，コミュニケーションをとる中で，相手の立場に立って考えることができる。
- アカデミックサポートエリアに相談に来る学生の声を引き出すことができる。
- 相談に来る学生の勉強の仕方，履修科目，演習などの情報を基に，学部の履修要領とカリキュラム体系を念頭に，学生の状況にあった指導ができる。
- 大学の学びに必要なスキル・モラルについて説明できる。

【構　成】

第1回　ラーニング・コモンズとは
　　聞き手に求められる力―オーディエンス教育
第2回　妥協点を見つけるために受容的に聴く力―傾聴法
第3回　相手の立場に立って話をする力―自他尊重コミュニケーション―
第4回　各学部のカリキュラムと履修科目を知る
第5回　大学での勉強とは？勉強法についての知識をアップ
第6回　模擬アドバイジング練習
第7回　学生のタイプに基づく授業形態へのアドバイス
第8回　協同学習のアプローチ
第9回　アクティブ・ラーニング，学生主体型授業
第10回　特別ワークショップ　協同学習の理論と実践

入室者数（春学期）



試験期間前（7月）に特に多く利用されている。
夏期休暇期間中（8月　9月）は平均入室者数が減少しているが、8月の土曜日　日曜日の入室者数が比較的多いのは、試験期間中に当たっていたためだと考えられる（8月の土曜日　日曜日の開室は、試験期間中の3日（土）、4日（日）、10日（土）の3日間のみ）。

ラーニング・コモンズ運営状況

2013年4月に開設したラーニング・コモンズの運営状況についてご紹介します。

学習相談

ラーニング・コモンズ3階のアカデミックサポートエリアでは、アカデミック・インストラクターが学生の学習相談に乗っています。
開設した4月から8月末までの間に、延べ406名の学生から約600件の相談を受け、特にレポートの書き方に関する質問が多く寄せられています。

協同学習ワークショップ

7月18日18時30分より、講師に安永悟氏（日本協同教育学会理事・初代会長／久留米大学教授）をお招きし、ラーニング・コモンズ2階のプレゼンテーションコートにおいて、協同学習に関するワークショップ「後輩をサポートしたいあなたに～知らないうちに、学びを最大化できる協同学習とピアサポートへの誘い」を開催しました。
約30名の学生・教職員が参加し、協同学習の考え方・進め方と活動性を高めるグループづくりを理解することを目的として、様々なグループワークを交えながら、約2時間のワークショップを行いました。秋学期にも同様のワークショップの開催を予定しています。

Ⅱ.情報リテラシー教育をどう改善するか

新しい教育手法の登場

学生の主体的・能動的な学びを引き出す教授法（アクティブ・ラーニング）を重視し，例えば，学生参加型授業，協調・協同学習，課題解決・探求学習，PBL（Problem/Project Based Learning）などを取り入れる。大学の実情に応じ，社会奉仕体験活動，サービス・ラーニング，フィールドワーク，インターンシップ，海外体験学習や短期留学等の体験活動を効果的に実施する。学外の体験活動についても，教育の質を確保するよう，大学の責任の下で実施する。

「学士課程教育の構築に向けて（答申）」

図書館の情報リテラシー教育の限界

- 教育理論・学習科学が教職協働の共通言語
- 図書館での情報リテラシー教育の限界

＝「情報を使って，学習成果（アウトカムズ）を出すプロセス全体を指導・支援するサービス」になっていない。

アクティブ・ラーニング（協同学習，実践の文脈）を取り入れたプログラムの開発が焦点

同志社大学のこれまでの取組み

第１段階：情報源の紹介と検索方法を焦点とするプログラムの開発と実施

※高額契約データベースの利用促進と財務部からの批判回避

第２段階：「考え方」「思考の道筋」を重視した実践的・総合的プログラムの開発と実施

※事例教材の工夫，検索指導の工夫

《今後の課題》

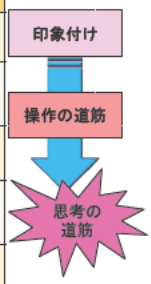
第３段階：アクティブ・ラーニングの手法を使ったプログラムの開発と実施

※学習支援の視点を組み込んだ企画・立案

2008年度 全国図書館大会 第2分科会
同志社大学の報告よりスライド借用

講習会プログラム「情報探索の技」の体系

	企画・構成 仕様確定	講師
入門・初級（4コース） 役立つ図書館活用術	図書館スタッフ （初年次教育コースと連動）	委託
初級編（4コース） 30分でわかる	図書館スタッフ	図書館スタッフ
初級編 読んでみよう！	図書館スタッフ	図書館スタッフ
中級編（3コース） 90分でバッチリ	図書館スタッフ	図書館スタッフ
中級編（5コース） プロが教える	委託	委託



たとえば、思春期ダイエットの問題と指導方法は……

具体的なプログラム像

「卒論テーマ探索の術」（同志社大学）

「情報探索と表現」（青山学院大学）

学術情報リテラシープログラムの焦点

プロセス

グループで，アクティブ・ラーニング

	<成果>
▸ 探索して	イベント企画書をつくる。
▸ 探索して	ポスターをつくる。
▸ 探索して	テーマを形づくる。

情報を使って成果を出すための，思考の道筋・思考のスタイル

情報リテラシーの定義

情報リテラシーを持っている人は、つまるところ、学習の方法を知っている人である。学習の方法を知っているのは、情報がどのように構造化されているか、情報をどのように見つけるか、どのように利用すれば他人が自分の成果を摂取して学んでくれるかを知っている。

また、どのような作業や判断においても必要な情報を見つけることができるので、生涯を通じて学んでいく。

ALA, *Presidential Committee on Information Literacy, Final Report (1989)*

※Knowing how to learn , Learning how to learn

⇒ 中教審「学士課程教育の構築に向けて（答申）」と同心円

アクティブラーニングの手法を学術情報リテラシー教育に取り込めるか

2000年～2005年頃のALAでの議論
情報リテラシー教育をアクティブラーニングで，展開できるかどうか。

何が必要なのか？

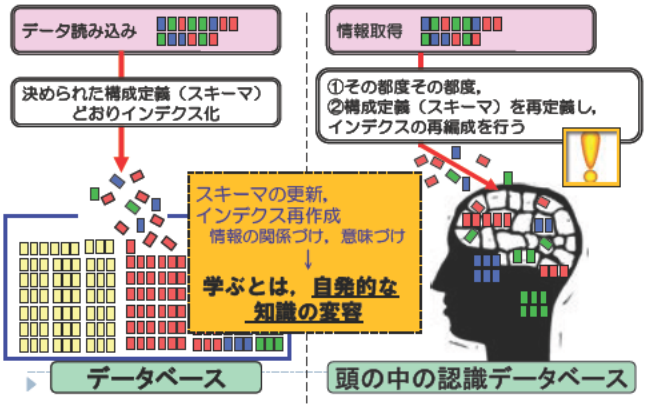
学習（学ぶ）とは何か

- 日々得る情報を批判的に摂取し、新しい知識を創るために、頭の中の思考のスキーマ、インデクスを更新し、知識を再定義・再構成するプロセスそのもの。

Fabulous!!

エルゼビアサイエンス ライブラリ・コネクトセミナー
「情報リテラシー教育」(2009. 12)

学習（学ぶ）とは何か



同志社大学
鈴木夕佳氏 作成

欧米と日本の情報リテラシー教育の違い

学習支援に必要な能力

1. 支援するひとが、インストラクショナル・デザインと学習環境理論を知っている。
2. 教授法・教育手法を理解している。
3. 学習理論「人はどう学ぶのか」を学んでいる。
   ※アンカードインストラクション、ジグソーメソッドほか

上記のことに基づいた設計と運営

Blended Librarian, Embedded Librarianに学ぶ

- Blended Librarian：
  図書館スキルをIT技術，授業設計技術，教育工学等と結びつけて大学の教育現場で活躍する図書館員
  The Blended Librarian.
  http://crln.acrl.org/content/65/7/372.full.pdf（参照 2011-06-06）
- Embedded Librarian:
  図書館を離れ，利用者が活動している場から，利用者と活動をともにしつつ情報サービスを提供している図書館員
  鎌田均．「エンベディッド・ライブラリアン」：図書館サービスモデルの米国における動向．カレントアウェアネス．2011, no.309, p6-9.

ワークショップのような実践的な情報リテラシー教育が実行でき，情報の特徴や信頼性を批判的に評価することを，学生のリサーチプロセスの全領域に関わって指導する。

図書館とアクティブ・ラーニングの関係

- 学術情報委員会（科学技術・学術審議会、学術分科会）
  「学術情報がアクティブ・ラーニングに果たす役割を明確にしてほしい」

従来：モノ（情報）があって、配信する【モノ重視】
学術情報流通：ロジスティックスの視点で語りすぎた
きらいあり（インフラ面に偏重）

今後：まず学びの行動があって、モノ（情報）を使って、
人の「認知」を変える支援をする【コト重視】

◎科学技術・学術審議会　学術分科会
研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会

「大学図書館の整備について」（審議のまとめ）
－変革する大学にあって求められる大学図書館像－
2010年12月3日

1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け
   （3）大学図書館に求められる機能・役割
   ①学習支援及び教育活動への直接の関与
2. 大学図書館職員の育成・確保
   （2）大学図書館員に求められる資質・能力等
   ①大学図書館職員としての専門性
   ②学習支援における専門性
   ③教育への関与における専門性
   ④研究支援における専門性

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm
（参照2013-07-01）

ご参考までに（1）

学習科学・学習理論を理解するために

連載　5分でわかる学習理論講座（全11回）. Beating（メールマガジン）. 2005, no.11－2006, no.22.
http://www.beatiii.jp/beating/index.html（参照　2013-11-28）
※連載内で紹介されている文献すべて
中原淳，金井壽宏. リフレクティブ・マネージャー：一流は常に内省する. 光文社. 2009.

井上真琴. ラーニング・コモンズは大学図書館を変える. 私学経営. 2013, no.460, p.30-36.
井上真琴. “大学図書館の学習支援”. 平成25年度大学図書館職員長期研修配付資料. 2013.　http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/2013/17.pdf（参照 2013-11-28）.
井上真琴. なぜ，ラーニング・コモンズが注目されるのか. 私立大学図書館協会会報.　2011, vol.135,　p.73-87.
井上真琴. FDとの接点から図書館を視る. 丸善ライブラリーニュース. 2009, no.7・8, p12-13.

ご参考までに（2）

押えておくべき「答申」類など

- 2008年3月25日
  中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」
  http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/080410.htm
  (参照2013-07-01)
- 2008年12月24日
  中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて（答申）」
  http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm
  (参照2013-06-08)
- 2012年3月24日
  中央教育審議会大学分科会大学教育部会「予測困難な時代において生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ（審議まとめ）」
  http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm
  (参照2013-06-08)
- 2012年8月8日
  中央教育審議会大学分科会大学教育部会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け,主体的に考える力を育成する大学へ（答申）」
  http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm
  (参照2013-07-01)